

▲▲▲ 谷川岳 マチガ沢東南稜 ▲▲▲

～オキの耳は遠かった～

(報告) FJ

◎期日：2020年9月21日～22日

◎メンバー：KM (L)、FJ

今夏、KMさんと沢登りを複数回行き、初秋に谷川岳の沢、岩を登る計画を立てていた。谷川岳と言えば一ノ倉沢が有名なので、中央稜と南稜を調べていたが、経験豊富なKMさんのアドバイスで、まずは谷川岳バリエーションコースの規模、負荷、体力消耗度を見極めるため、マチガ沢東南稜を挙げていただいた。山頂のオキの耳まで登るルートなので念願の谷川岳登頂ができることもあり楽しみだ。

DAY 1 9月21日

今日は前泊のため現地に入り、マチガ沢及び一ノ倉沢の偵察を行った。これまで天神平を登ったのみで、沢から谷川岳の岩稜を見るのは初めてだ。ロープウェイの駐車場に車を停めて、いざ偵察へ出発！9月の豪雨の影響で天神平ロープウェイは運休となっており、ロープウェイ周辺の人は疎らである。

登山指導センターに明日の登山届を提出してから291号線を歩き、マチガ沢出合に到着。天気もまずまずで、出合からオキの耳まで明日登るルートを見ることが出来た。今日は偵察のみではあるが、ソワソワしてしまう。

昔、この辺には3軒の宿があったそうで、清水峠から疲れ切って下ってきた人がマチガ沢の灯火を見て、「ああ、町が見える」と発した言葉が名前の由来だそうです。

続いて一ノ倉沢出合に到着。マチガ沢は奥行きがあり解放感があるが、ここは壁といった感じで威圧感を感じる。生で見るとは格別だ。沢の上部まで上がり、間近で岩壁を見て雰囲気を楽しんだ。一ノ倉沢には多数の登攀ルートがあり、とても一度では覚えられない。看板にある案内図と実際を照らし合わせて確認を行った。



(マチガ沢)

ロープウェイ駐車場まで戻り、今日のテント場を探す。2月に雪上訓練を行った無料駐車場に行くが、やはり水場とトイレがないと厳しい。他の登山者に尋ねると谷川岳ドライブインキャンプ場を勧められ、有料（1人 ¥2000-）ではあったが広い芝生で車をテント近くに駐車することが出来便利だ。寒くもなく快適なテント泊が出来た。

DAY 2 9月22日

夜中に何度か目が覚めると、ポツポツと雨が降っている。天気予報では雨にはなっていないのだが…。局地的に降っただけで山の方は降った痕跡はなかった。昨日と同様にマチガ沢出合まで行き、巖剛新道登山口に入り高度を上げていく。

予定ルート

マチガ沢出合～第一見晴台～マチガ沢本谷～東南稜～谷川岳山頂（オキの耳）～
西黒尾根巖剛新道分岐～第一見晴台～マチガ沢出合

巖剛新道を第一見晴台まで登り、マチガ沢に下って入渓。沢装備をする。ここまでの登山道に9月の豪雨の影響は特に見られない。天気はまずまず、快適な気候の中、マチガ沢を遡行していく。岩ゴロゴロ、大滝、ゴルジュ、CS、ナメ滝等、様々な形状が見られ、丹沢の沢に比べてスケールが格段に大きい。一部、ヌルヌルして滑りやすい岩があり、登攀ルートを試行錯誤して予想していたより苦勞した。また、ロープを何度か使用した。

徐々に高度を上げて、白毛門方面の山の稜線と目線が合ってきた。東南稜の姿もチラチラ見えてきている。だが、ここから東南稜取付きまで長く感じた。よくある、目標点は見えているが、中々着かないパターンである。本谷から右に逸れて東南稜方向に登るのが最短と思われるが右に逸れる場所が少し遅く、やや遠回りしたのも影響したと思う。



(第一見晴台からマチガ沢)



(KMさん)



(筆者)

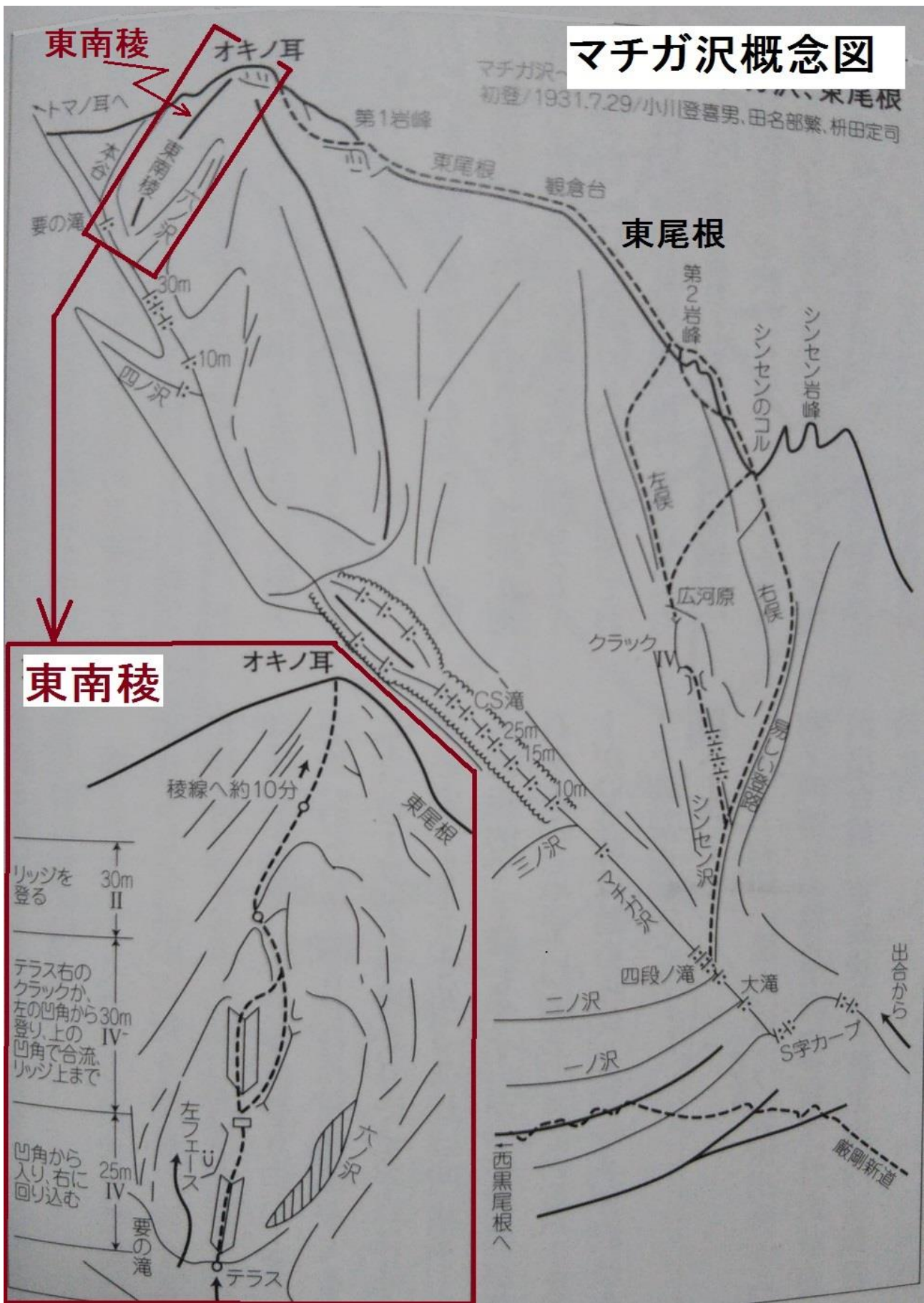
昼頃、東南稜取付きと思われる箇所に到着。途中滑りやすい箇所があるようなので、このまま沢用のフェルト靴で登ることにする。残置ハーケン、上には残置スリングがあり、ここが取付きだろうと・・・、登攀準備を進める。だが、事前にHPで見た写真と岩の形が違うように感じる。KMさんがリードで登るが、難しい。やはりおかしいということで、右下にクライムダウンし岩屋を潜るとHPの写真と合致したルンゼがありテラスがある。ルート図とも合致。どうやら先程の取付きは「左フェース」であった。



(東南稜。中央奥)

ここで20分程ロス。 ※ここから先、登攀時撮影写真はありません。

マチガ沢概念図



(ルート図)

●1ピッチ目

KMさんリードで登攀開始、途中両壁で囲まれた箇所上部でスリップして苦戦されているようだ。「(脱力感がひどく)腕に力が入らずこれ以上進めない」旨の声かけがあり、筆者が同地点までフォローで登り合流、リードを交替する。

●2 ピッチ目

両壁で囲まれて奥まった箇所の子いか、日当たりが悪く岩がヌルヌルしてて、ホールドも悪い、おまけにハング気味。残置スリングがあり、ちょっと怖いがこれに頼って登るしかない。筆者がA0してクリア。ハングを右に出て少し出た箇所でピッチを切る。ここから先は筆者がリードで登攀した。

●3 ピッチ目

右のクラックを登り、テラスに出てピッチを切る。

●4 ピッチ目

直登するか、右の草付を登るか迷うが、KMさんが右の草付に行けるか確認し、行けそうとの事で右側の草付を登る。その先、スラブ状の正面壁の取付きにでる。正面壁の左リッジに沿って10m程登ると、右上方向に残置ハーケンと残置カラビナが付いた箇所が1箇所、又その上の段に1箇所発見した。右下に落ちると斜面が切れているので、次の中間支点を早く取りたい。1つ目の支点の位置まで何とか登り支点を取ったが、その上の段に登ろうとしても壁にホールドがなく登れない。焦り、迷い、さてどうするか？

時間を要してしまい、下からKMさんが様子はどうだと声がかかる。一旦落ち着いて、ロープを張ってもらってから少々クライムダウン。すると登攀ルートの脇に小さいテラスがあり、リングボルトがあった。登っているときは残置カラビナに目がいってしまい気付かなかった。とりあえずここでピッチを切ることにし、リングボルトと岩の突起にスリングを掛けて支点を作り、ロープアップ、KMさんを迎える。KMさんに状況を見てもらうと、残置カラビナは、恐らく途中で行き詰まり懸垂下降をやって撤退した跡だろうとのこと。むむ、知らなかった・・・又は教わったけど忘れていたか。

ルートと勘違いしてしまったようだ。右上方向、残置ハーケンと残置カラビナが付いたルートから左方向左リッジの正面の岩から草付を登り、次の5ピッチ目へ移行した。

●5 ピッチ目

左リッジの正面の岩から草付を登り、大岩の手間でピッチを切る。

●6 ピッチ目

大岩左側のリッジを登る。辺りはだんだんと暗くなり始めるのと同時にガスが出てきて視界が悪くなってきた。気持ちに余裕なし。リッジのトップに着いて、残置ハーケンにセルフビレイをとる。ここはピナクルになっていて、前方に岩はあるが、足元はスッパリ切れている。恐らく懸垂下降で15m位左下の草付に降りるしかないだろう。KMさんに相談するため、ロープアップするが、ロープの流れが悪いのと、残置ハーケンが地面にあるため、スムーズにロープアップできず時間を要してしまった。KMさんからロープアップ！と何回も声がかかるが、きつかったです(KMさんすみませんでした)。KMさんの指示で懸垂下降することになり、急斜面の草付に着地。もう稜線は近いはずだ。

※恐らくピナクルに登攀する必要はなく、大岩を更に左に回り込めば草付に入れた

●7 ピッチ目

ロープをザックに入れて、草付をひたすら登る。時間を見てもう17:30を過ぎている。これは連絡を取らなければと思うが携帯の電波が入らない。ヘッドライトを付けて、まずは稜線を目指す。左前方に何かの人工物(給水施設小屋らしい)があり、安心感が湧いてきた。管理用ロープが途中から敷設されて、こちらを使う。やがて稜線が見えて安堵する。真っ暗になる前に稜線へ出ることができた。そこからはガスの中、オキの耳のシルエットが見える。

東南稜ルート図では3ピッチと草付歩きであるが、実際はピッチが多くなってしまった。他の方の山行をHPで拝見すると、東南稜はルートファインディング次第で簡単にも難しくもなる様で我々は後者になってしまったようだ。残置スリング、ハーケンは所々にあり、それを当てにすると痛い目を見らるしい・・・反省。東南稜登攀がここまで大変で時間がかかるとは思わなかった。筆者は特にルートファ

インディングと安全な支点構築が課題であると感じた。これは、外岩の経験を増やすしかないかと。良い教訓になりました。

18時前に稜線に着いて、一息置いてから登山指導センターに東南稜登攀終了の連絡をするも繋がらず。次に当会事務局長のOさんと連絡を取ることが出来、登攀終了と下山が遅くなる旨を伝え、一安心した。登攀中は水分、行動食を十分に補給できなかったため、ここで大休止して補給。ここまで遅くなると焦っても仕方ない。半ば開き直りだ。下山に備えて登攀装備を解除。オキの耳が目前だが、もう暗いし、危険だし、山頂に行っても・・・ということでまたも谷川岳登頂はお預けだ。谷川岳とはどうも相性が良くないようだ*1。また、KMさんは山行後、体調が優れなかったようです*2

- *1 トライ1回目 行き的高速で車がパンクして入山断念
- トライ2回目 天神平からオキの耳まで行ったが、悪天候とアイゼンを持ってなく撤退
- トライ3回目 行き的高速で事故渋滞に巻き込まれ入山断念
- 今年2月の雪上技術研修 登頂する行程はなかったが、体調不良による発熱で早退
- *2 帰宅後の検査で肝腎等の数値が異常値となり大学病院にて精密検査を受けることに

夜間でガスに囲まれた中、西黒尾根目指し稜線を進む。久しぶりのナイトハイクだ。焦らず慎重に道を間違えないように注意する。西黒尾根の途中、ザング岩を過ぎた1600m付近でFさんからKMさんに電話があった。登攀が終わって、西黒尾根を下っているのであればきっと大丈夫ですよ、と心強い言葉をいただいた。それにしても、夜間の西黒尾根は岩場が多くルート間違いやすく下りにくいところでした。

西黒尾根巖剛新道分岐に到着、疲労困憊で休憩をした。ガスが晴れて、遙か彼方に街の明かりが見える。マチガ沢か…。

街の明かりは安心感を与える。巖剛新道をひたすら下り、第一見晴台を過ぎたところで、KMさんが当会事務局長のOさんに下山状況を連絡、「あと30分」との激励を受け、さらに下り、ようやくマチガ沢出合に無事到着、疲れた～。車に戻り、谷川岳ドライブインキャンプ場に張りっ放しのテントを撤収し、翌朝帰宅しました。KMさん、長時間お疲れ様でした！

下山が大変遅くなり、関係する方々にはご心配をお掛けしました。

<<参考コースタイム>>

9月21日

八王子集合 (9:00) ~ 谷川岳ロープウェイ駐車場 (13:35) ~ マチガ沢出合 (14:10) ~
一ノ倉沢出合 (14:37) ~ 一ノ倉沢上部 (14:55~15:15) ~ 一ノ倉沢出合 (15:30) ~
谷川岳ロープウェイ駐車場 (16:30) ~ 谷川岳ドライブインキャンプ場 (17:30)

9月22日

キャンプ場発 (5:30) ~ 登山指導センター (5:53) ~ 巖剛新道登山口発 (6:20) ~
第一見晴台 (7:05) ~ マチガ沢入渓 (7:15) ~ CS滝 (8:56) ~ 滝上 (9:54) ~
一本1700m (11:57) ~ 東南稜取付 (12:30頃) ~ 稜線到着 (17:50頃) ~
下山開始 (18:30頃) ~ 西黒尾根巖剛新道分岐 (20:46) ~ 巖剛新道登山口到着 23:45



(西黒尾根巖剛新道分岐)



ヤマレコ seizanryo 様から拝借
↑東南稜



ヤマレコ zvn06025 様から拝借